

街道を歩く

東海道近江：04水口元町一泉一三雲



姫塚

水口岡山城主名東正家の正室栄子姫を葬った所。関ヶ原合戦後姫が此処まで脱出してきたが産後の肥立ちが悪く死去。墓碑は明治になってから一族が建立。正家は日野中郷で自害。(安乗寺に墓)



高札場跡三筋の東側



町並み

水口宿 土山宿から2里半7丁

本陣1、脇本陣1、問屋場1、旅籠4町並みは東西22町6間。室町時代伊勢参宮詣での宿村として設けられたのが始まり。伊勢の山中氏、周辺の伴氏、美濃部氏ら土豪が互いに勢力を伸ばしていた地。天正3年(1585)秀吉は中村一氏に命じて大岡寺背後の大岡山(古城山)に城を築かせ町割りも整備させた。宿内三筋の街道は築城当時のものと云われる。江戸時代当初から宿場で幕府領であったが天和2年(1682)加藤明友が水口城主になってから水口藩となる。



大池寺

天平年間(729-49)行基開山の伝え。信長の焼き討ちに遭うが織田正信が寛永7年(1667)再興。見所は小堀遠州の作庭、蓬萊庭園。



立志神社
倭姫が御杖代として巡幸の時4年間鎮座。瑞雲緋のごくたなびいたので緋雲宮とも、後 日雲、いつしか三雲に。

天保義民之碑

天保義民之碑

天保13年(1842)幕府勘定方市野茂三郎らの過酷な検地に抗議し三上村庄屋土川平兵衛らが中心となり甲賀、野洲、栗太三郡の農民4万が碑のある伝法山中腹に集結、役人に検地10万日延期を勝ち取った。しかしその後捕らえられた百数十人は全員獄死した。この義民の霊を弔い、功績を称え明治11年に建てられる。



泉の一里塚跡
横田の渡し場跡
その昔この辺りでは横田川と云った高さ9.7m大常夜灯 金毘羅大権現 万人講中 文政5年(1822)建立。



北脇

水口城址

寛永11年(1634)三代將軍家光の上洛にともない御茶屋が築かれた、これが水口城。本丸と二の丸からなる。作事奉行は小堀遠州で、二条城の作事と同時にされた。別名 碧水城。本丸は凸型の縄張り、二条城と同じ構造と云われる。天和2年加藤明友が石見国から城主に、水口藩2万国となる。3年掛けて町並み整備。元禄8年(1695)から正徳2年(1712)まで鳥居氏が城主。その後再び加藤氏となり明治まで続く。いま、本丸は高校のグラウンド、模擬櫓が水口城資料館。



大岡寺

本尊千手観音立像(鎌倉時代初期、寄木造り、重文)白鳳期(686)、行基創建の古刹。最盛期16坊を数える院。天正2年兵火で全焼。天正12年(1584)中村一氏が再興。歴代城主の祈願所ともなり、明治維新まで水口神社の別当寺を勤める。

境内に芭蕉句碑(蓮華寺にあったもの)貞享2年(1685)春、江戸への途次、20年ぶりに旧友と再会。「命ふたつのなかに 生きてる 桜かな」

参道入り口に

「鴨長明発心所」「岡観音甲賀三郎兼家旧跡」の碑。長明が滞在し髪を剃った地と云われていたが加茂二郎義國の説もある。岡観音は、甲賀三郎兼家の守り本尊。兼家は猛勇で山野を狩し山ノ神大蛇を斬殺し、その怨念で蛇身となったが後に観音の大慈の功力で人間に戻る。



蓮華寺

推古27年(619)聖徳太子創建との伝え。芭蕉がしばしば泊まった寺。芭蕉は伊賀上野の多賀求伸らと交流。野ざらし紀行の時水口で20年ぶりに友人に会う。そのときの句碑は今大岡寺境内にある。友人とは服部土芳とされる。境内に小堀遠州の作庭があったというがいま石一つ残るのみ。



善福寺

岡山城落城で焼け残った天守閣の材料で本堂を建てたという。その後本堂は建替えられたが本堂右手廊下の天井板に落城時自害した武士の血の手形が今も残る。